ナビゲート印刷の実力をデモ

＜ハイデルベルグ社＞

400名が来場「Packaging Day」開催

ライナー・フンズドルファーCEOが業容を説明

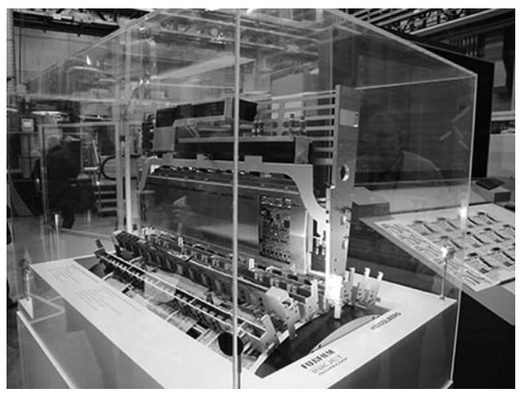
ハイデルベルグ社は11月8日、ウィスロッホ工場・ホール11にある「Print Media Center Packaging」において「Packaging Day」を開催。欧州を中心としたパッケージ印刷業者らおよそ400名が来場した。

パッケージ印刷分野における印刷機の自動運転、ナビゲート印刷の実力をデモ

成長期待されるパッケージ印刷

イベント開催に先立ち、昨年11月に就任したライナー・フンズドルファーCEOが登壇。「この5年間で年率2・8％成長が期待されているパッケージ印刷業界において、ハイデルベルグはそのすべての生産工程に添った製品、ソリューション、消耗品、サービスを提供できる唯一のソリューションプロバイダーである」と述べ、ハイデルベルグ社がパッケージ印刷分野におけるマーケットリーダーであることを強調した上で、「早いペースで継続する企業間合併」「品質要求」「小ロット化」「グローバルマーケットでの競合」といった市場の課題に言及。

「顧客は競争から一歩抜け出すための戦略を見出す必要がある。そこに本日我々は、ビジネスに新しい衝撃を与えることができるソリューションとして『オペレーショナル・エクセレンス（業務改善プロセス）が現場に定着し、業務オペレーションが磨きあげられ、競争上の優位性にまでなっている状態）』、『新しい技術やアプリケーション』を披露する」と述べ、その一端を紹介した。



打抜機、製函機などを中心に後加工ラインの展示

イベント会場には、印刷機として「スピードマスターXL145-6+L」「スピードマスターXL106-8-P+LYYL フォイルスター」「スピードマスターXL75-8+LYYL アニカラー2」が設置され、いずれの印刷機にも「Simply Smart」を具現化する「Push to Stop」コンセプトに基づいた自動運転機能を搭載。パッケージ印刷分野における印刷機の完全自動運転、ナビゲート印刷の実力をデモンストレーションで示した。

このほか、2015年から提携関係にある中国・Masterwork社の打抜機や製函機などを中心に後加工ラインの展示も充実させ、パッケージ生産の幅広いトータルソリューションを披露し、パッケージ分野におけるマーケットリーダーとしての存在感を示した。

Apple 3Dモデルで魅力体感

世界最大級の太陽エネルギー設備設置

アップルパークビジターセンター 一般公開

アップルパークビジターセンター

Apple Park Visitor Centerが11月17日、クパティーノにオープンし、近隣の住民や多数のゲストがApple Parkのイノベーションを体験した。

Visitor Centerは新しいキャンパスの建築と整合性のあるユニークなデザインの建物で、階段や石の壁、人造大理石の床など、新しいキャンパスと同様の美的特徴を持っている。

Visitor Centerのカンチレバー式カーボンファイバーの屋根はまるで浮いているように見えるが、石で覆われた芯だけで支えられており、外側から支える柱は一切使っていない。

Visitor Centerを体験する初最大規模で自然に換気される建物について学び、敷地内における世界最大級の太陽エネルギー設備を見ることができる。さらに屋根をはずす操作を選ぶと、建物の中の共同オフィスポッドのレイアウトを見ることもできる。

また、ビターは、拡張現実技術で再現されたApple Parkの3Dモデルを体験することができる。

ゲストは屋上のテラスに上がって、本館の美しい姿や、地上に植わった9000本の地域固有の干ばつに強い植物を眺めることもできる。1階に降りてくると、そこにはオリーブの木に囲まれたカフェや、Apple製品のみならず、ここだけで買えるAppleやApple Parkブランドの商品が並んだストアが客を待っている。Apple Park全体が一番美しく見えるのは屋上テラスからだ。カフェでは軽食が用意され、屋内と屋外に座席がある。

Visitor Centerにはすべての製品が揃っている。

拡張現実技術で再現された3Dモデルを体験

ビジターセンターでの体験を楽しむ多数のゲスト

需要増大に対応し拡充へ

＜サカタインクス＞

中国缶用インキ工場を移転

SAKATA INX（ZHONGSHAN）CORP.（阪田油墨＜中山＞有限公司）

サカタインクス㈱（大阪本社・大阪市西区江戸堀1、東京本社・東京都文京区後楽1、日教販ビル、代表取締役社長・森田耕太郎氏）は、中国（広州）における缶用インキ製造工場の移転および増強を行った。

中国国内および東南アジアへの輸出を担う生産拠点として、需要の伸びに対応した広いスペースの工場となる。

また移転に伴い社名を「番禺南沙阪田油墨有限公司」から「SAKATA INX（ZHONGSHAN）CORP.（阪田油墨＜中山＞有限公司）」に変更した。同社は今後も環境に配慮した高品質な製品の生産と安定供給に努めていく。

ウェブ公開の「日本アニメーションクラシックス」

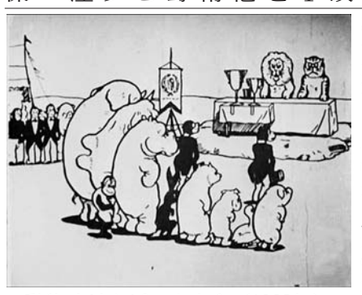
紹介展示会を開催 貴重な25作品

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（住所：東京都千代田区、所長：喜連川優氏、以下・NII）と、コンテンツ科学研究系教授、高野明彦氏の研究室は11月6日から12月5日まで、東京国立近代美術館フィルムセンター（NFC）と共同で開発したウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」を紹介する展示会「日本アニメーション映画クラシックス』in幽霊坂KS46Wall-ギャラリー」を、東京・御茶ノ水で開催した。

「日本アニメーション映画クラシックス」は文化庁の「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究（BDCプロジェクト）」の一環でNFCが開設し、現存するなど最も初期のアニメーション映画などNFCが所蔵する戦前・戦中の64作品や資料を公開している。

「日本アニメーション映画クラシックス」は、日本でアニメーション映画が誕生したとされる1917年から100年を記念し、文化庁の「文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）」の一つであるBDCプロジェクトとして開設された（注1）。

映画のデジタル化や保存技術に関わる実践的な調査研究、ならびにコレクション公開の新たな方法を試みるための調査研究の一環という位置付けだ。公開されているのは1917～1941年に製作・上映された64作品で、1917年公開と現存する最も初期の作品である「なまくら刀」など日本の初期アニメーションの世界を手軽に体験できる同サイトをより多くの人に知ってもらうために、NIIとNFCの共同企画で展示会を開催することにした。



動物オリムピック大會（1928年）の一コマ

会場の「デジタルギャラリーKS46Wall」はビル間の歩行者専用通路にあり、約50㍍の通路の壁に設置された60㌅の大型モニター27台を活用して、通常はパソコンの画面などで閲覧する同サイトの動画を大画面で楽しんだ。

今回の展示会で公開されたのは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催にちなんで村田安司の「動物オリムピック大會」や大藤信郎の「切紙細工・西遊記　孫悟空物語」など25作品。各動画のページには「日本アニメーション映画クラシックス」の当該作品のページにリンクするQRコードが記載されており、観覧者は自分のスマートフォンなどでQRコードを読み込むことで動画をスマホで簡単に再生することができる。

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所 National Institute of Informatics

NII・LINE 共同研究の覚書締結

社会課題解決できるIT研究を 2018年度に共同研究部門設置へ

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（以下・NII、所長：喜連川優氏、東京都千代田区）とLINE㈱（代表取締役社長：出澤剛氏、東京都新宿区）は11月27日に共同記者会見を開催し、共同研究の発展や研究開発業務の強化を図るための共同研究に関する覚書を締結して、2018年度に共同研究部門を設置するなどの具体的な取り組みについて協議を始めたことを発表した。

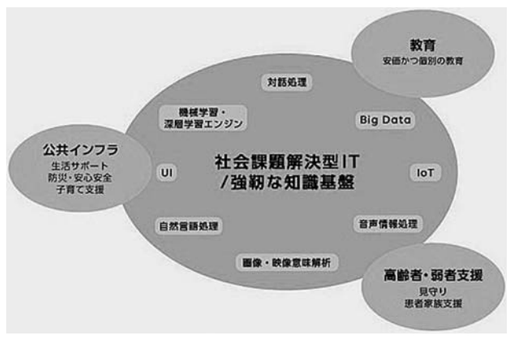
NIIとLINEは共同で、「Robust Intelligence（ロバスト・インテリジェンス）」と「Social Technology（ソーシャルテクノロジー）」を主軸とした社会課題解決のための強靭な知識基盤の研究に取り組んでいく予定。

今回締結した覚書に基づき、NIIとLINEは共同研究部門（注1）の設置について検討していく。現時点では同部門はNIIに置かれ、LINEが同研究部門の運営経費など両者の共同研究に必要な経費を負担する予定。具体的な研究の課題や範囲などについては、今後協議する。

NIIは大学共同利用機関（注2）として、全国の大学や研究機関と連携・協力して研究や事業を行っている。本共同研究においては、NIIを中心に大学や他の研究機関からも研究者を募り、来年度の共同研究部門設置時には、京都大学、東北大学からも研究者が参加する予定。次年度以降は他機関からの参加の規模を拡大し、より多くの機関の研究者が参加する態勢を作っていくことを念頭においている。

今回NIIとLINEが設置を検討している共同研究部門は「Robust Intelligence and Social Technology（ロバスト・インテリジェンス・アンド・ソーシャル・テクノロジー）」に主眼を置いている点が特色だ。常に変化し、多様性のある現実世界の環境に対応する強靭さを兼ね備えた知的能力をもち、社会課題を解決できるような情報技術（IT）の研究開発に取り組んでいく。

記者会見終了後に握手をかわすNII喜連川所長㊧とLINE出澤代表取締役



共同研究部門の研究範囲のイメージ

共同研究部門の名称は「Center for Robust Intelligence and Social Technology（CRIS）」を予定している。

【NII所長・喜連川優氏のコメント】

「NIIとLINEは、商業的価値を追い求めるのではなく社会課題解決という観点から、新しい分野であるRobust Intelligence and Social Technologyにより、社会にどのような新しい武器を提供することができるのか、共同で研究していきたいと考えている。NIIは大学共同利用機関としてすべての大学のすべての学問に対してサービスを提供するのがミッションで、今回はNIIの研究者だけではなく他の大学の研究者にも幅広く参加してもらう枠組みにしていこうと考えています。」

【LINE代表取締役社長・出澤剛氏のコメント】

「現在、LINEではAIアシスタント『Clova』の開発に全力で取り組んでいますが、この分野は、世界的に見ても非常に競争が激しい分野です。今回、情報学における基礎論から人工知能やビッグデータ、IoT、情報セキュリティーといった最先端のテーマまで幅広く研究を行っているNIIと共同で、AIを含む、Robust Intelligence and Social Technologyという研究分野にチャレンジできることに大変期待をしています。新設に向けて協議を開始した本共同研究部門の成果では、日本の英知を集結し、LINEのAI分野への応用に限らず、さまざまな社会課題の解決に寄与していきたい考えです。」

（注1）共同研究部門＝公益性が高く研究上有意義で優れた成果が期待できる研究部門を、民間機関などから受け入れる経費等を活用して設置・運用するための情報・システム研究機構の「共同研究部門制度」を利用して設置する予定。

（注2）大学共同利用機関＝個別の大学単位では設置や維持が難しい最先端の大型装置をはじめ、大量の学術データや貴重な資料、分析法などを全国の研究者に無償で提供し、個々の大学の枠を越えた共同研究を推進するわが国独自の研究機関。

ドワンゴ・NTTドコモ 1500以上のアニメ作品 月額400円で見放題 dアニメストア ニコニコ支店開設

㈱ドワンゴ（本社・東京都中央区、代表取締役社長：荒木隆司氏）と㈱NTTドコモ（本社・東京都千代田区、代表取締役社長：吉澤和弘氏）は、ドワンゴが運営する動画サービス「niconico」の「ニコニコチャンネル」に、1500以上のアニメ作品が月額400円（税別）の定額で見放題となる新たなチャンネル「dアニメストア ニコニコ支店」（以下・本チャンネル）を、12月1日㈮正午に開設した。

【最新作品から定番作品まで1500作品以上、約2万話のアニメが見放題】

「dアニメストア ニコニコ支店」は、dアニメストアが運営する使い放題等、テレビで放送中の最新の巨人」「ソードアート・オンライン」等の定番作品まで、幅広いアニメ1500作品以上、約2万話がスマートフォンやPC等でストリーミング視聴できる定額制のアニメ見放題サービス。

動画サービス「niconico」の「ニコニコチャンネル」

……

「niconico」の一般会員（無料）またはプレミアム会員（有料）であれば、利用可能

視聴者が感想の書き込みも

本チャンネルでは、豊富なラインナップに加え、「ニコニコチャンネル」の最大の特長であるコメント機能を利用し、視聴者がアニメ作品の場面ごとに感想を書き込むことができる他、生放送機能によるアニメ作品のライブ配信も行う。

生放送では、視聴者は同じ作品を同時に見ながらリアルタイムにコメントしあうことで、新たなコミュニケーションを楽しむことができる。

日々の人気ランキング表示

さらに、声優や監督等の名前など、キーワードによるアニメ作品の検索ができることに加え、日々の人気ランキングも表示する。

なお、本チャンネルの開設を記念して、2017年12月1日㈮より「アニメ全話一挙生放送・アニメちょい見生放送キャンペーン」を実施した。大人気アニメ「Re:ゼロから始める異世界生活」や、TVアニメの「温泉回」（温泉シーンが含まれる話）のみをセレクションした一挙生放送等を実施した。